



かがやき

かんがえる
かんばる
やさしく
さえる

時津町立鳴鼓小学校
学校だより 第8号

令和4年9月21日
文責：校長 今井大輔

授業参観&懇談会

9月12日〜14日までの3日間で授業参観と学級・学年懇談会が行われました。教室にエアコンが入っているとはいえ、換気のため、廊下の気温が高くなっていました。そのような中でも、最後まで参観していただきありがとうございます。各担任も子供たちも保護者の皆様に参観していただけたことを喜び、いつも以上に張り切って学ぶ姿がありました。

授業参観後に3年生が学年レクとして、アトリエイロイロの山藤布美子さんとイラストレーターの山口なみさんを講師に招き、「チョークアート」に挑戦しました。子供たちも保護者も夢中になって取り組み、笑顔が随所に見られました。体育館前がとても華やかになりました。普段は、落書きもできない場所に思いっきり描くことができ、子供たちにとっては、とてもよい経験になったと思います。また、2年生の保護者が交通安全立哨指導旗振り講習会を行いました。子供たちの安全のためにありがとうございます。



子ほめ事業

時津町では、「子供たちに感心したこと」「ほほえましくなったこと」「うれしくなったこと」など、私たち大人が見かけた子供たちの善い行いを広く紹介していただくため、平成二十七年から青少年健全育成町民会議と各青少年健全育成協議会の事業として、「子ほめ事業」を行っています。

各地区の公民館・集会所・公共施設に「子ほめポスト」が設置されています。「子供たちの善い行い」を見かけたり、体験したりしたことを、備え付けのカードに記入して投函します。投函されたカードは、各地区の青少協役員が回収し、該当する小学校・中学校に届けられるようになっていきます。そして、その届けられたカードは、学校で行事や集会、おたよりなどで紹介されるという流れです。

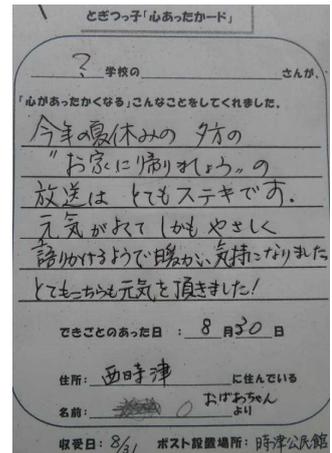


設置されている子ほめポスト

子供でも大人でも、誰でも褒められることは嬉しいものです。褒められると自信が湧き、やる気も起ります。自己肯定感や自尊心も高まります。

ぜひ、家庭や地域で子供たちの善い行いや言葉かけがあったら、その場で褒めてあげて、さらに、子ほめカードの投函もしてあげると豊かな心が育つのではないかと思います。

学校へ届いた子ほめカード



夏休み作品展

9月5日(月)〜9日(金)まで、児童玄関横ホールで恒例の夏休み作品展を行いました。子供たちは、見学のルールを守りながら楽しそうに鑑賞していました。図工科の学習の一環として鑑賞した学級も多くありました。子供たちは、「すごい！これ。」「来年は作ってみよう。」などの感嘆の声を上げて、作品を楽しんでいました。作品展後は、各自持ち帰って、自分の部屋やリビングなどに飾っていることでしょう。



つなやき

夏休みの宿題といえ、自由研究や工作、読書感想文がすぐに思い浮かぶ。保護者の立場からすると毎年のように頭を悩ませている家庭もあることだろう。我が家も「今年は何にするか」と、「感想文の本は選んだらどね？」と、8月になると心配していたものである。おそらく、皆さんの家庭でもこの夏休みに同じような会話が合ったのではないだろうか。

今年も鳴鼓小の玄関ホールでは、夏休み作品展を行った。どれも思いのこもった力作ぞろいであった。休み明けに作品を手を持って登校する数名の子へ同じ質問をしてみた。「どこがたいへんだった？」「一人で作ったの？」と、どの子も懸命に頑張ったところを語ってくれた。そして、父親や母親、祖父や祖母が手伝ってくれたことを嬉しそうに話してくれた。

今では、殆ど見かけなくなつたが、私が小学生の時の夏休みの作品は、昆虫採集(多くは、蝶の標本)であった。珍しい蝶を捕まえるために父親にいろいろな山や溪谷へ連れて行ってもらった。捕まえた昆虫の標本の仕方や名前の調べ方など、父親から全て習って完成させていた。

夏休みの子供の作品を大人が手伝うことに関しては、賛否あるかもしれない。しかし、私のように40年以上経っても、私のとの合作を覚えていたり、お家の人に手伝ってもらったことを嬉しそうに話す子供たちを見た時に、夏休みの宿題は、大人が手を貸すことも含めて、夏の思い出となるのだなと改めて思う。